

国立大学 附属学校園の 新たな活用方策

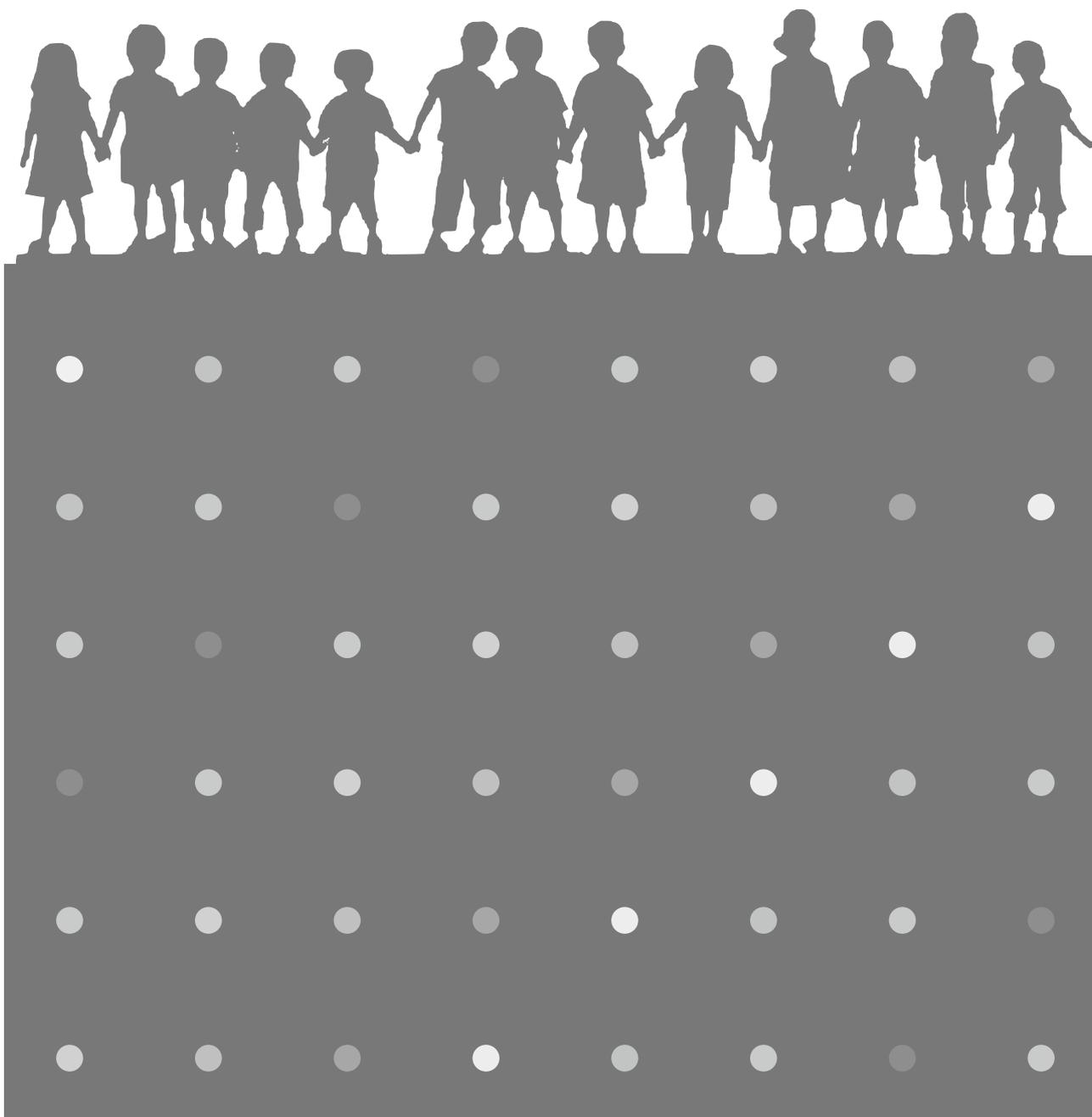


平成22年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業
「国立大学附属学校における新たな活用方策に関する調査研究」

山梨大学教育人間科学部

国立大学 附属学校園の 新たな活用方策

平成22年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業
「国立大学附属学校における新たな活用方策に関する調査研究」



目 次

はじめに	4
山梨大学教育人間科学部附属学校園における試み	7
附属学校園研究プロジェクトの概要	9
山梨県立甲府第一高等学校教員による附属中学校への出前授業	14
附属中学校生徒のための山梨大学特別授業	21
国立大学附属学校園の新たな活用方策に関する調査報告	30
北海道教育大学	31
秋田大学	33
和歌山大学	36
滋賀大学	38
奈良女子大学	40
神戸大学	42
島根大学	44
福岡教育大学	48
佐賀大学	51
フィンランド共和国・スウェーデン王国における 教員養成制度と附属学校園の役割に関する調査研究	54
フィンランド共和国における教員養成と附属学校の役割	59
スウェーデン王国における教員養成と附属学校機能の担保	66
第2回 附属学校園フォーラムの記録	74
国立大学法人附属学校園の新たな活用方策についての提言	76

はじめに

寺崎 弘昭 | 山梨大学教育人間科学部・学部長

Hiroaki TERASAKI

山梨大学教育人間科学部附属学校園のいま

山梨大学教育人間科学部附属学校園——幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校——は、すべてが教育人間科学部キャンパスに隣接し、半径1 km 以内の敷地に集中して存在している。こうした地理的な特性を活用し、附属学校園はこれまでも学部の教育・研究の場として重要な役割を果たしてきている。その内容は、教育実習の場、またその教育実習事前・事後指導のグループワーク型指導への全面的協力はもとより、学部の教職関連科目に附属学校の教員が協力する取り組み、そして、学部・学部教員の実験的研究の場としての活用、先導的教育実践研究と地域に開かれた研究成果の公開、などにわたっている。

なかでも、山梨県の教師教育に責任をもち、それを担うのが山梨大学教育人間科学部だという自負をかたちにしていくのが、本学部と附属学校の主要な機能の一つだということは論を俟たない。教師教育の柱は、二つある。第1には、未来の教師を育てること。第2には、現在教師として活躍されている方々の継続教育 (further education) に資すること。言い換えれば、教員養成と現職教員研修の二つである。

このうち第1の柱について言えば、本学部の教員養成カリキュラムの中軸は、平成18年度に本格実施に入った「持続的変態を促し育む教員養成プログラム—少人数グループワーク型基幹授業群」である。これは、教職科目を少人数グループワーク型の授業を中軸にした体系的なものとして、教員志望の学生を一人ひとり手厚く育もうとするカリキュラムを構築したものであり、教職に関する基礎的実践的力量的育成に主眼を置いたものである。そこでは、授業観察、授業実践の分析、授業設計等を内容として、その指導は、20名を1クラスの単位とする5～7クラスをそれぞれ教員が担当し、少人数グループワーク型で行っている。これに学部と附属学校の教員がTTで指導にあたる体制が確立されていることは、特筆するに値する。特に、教育実習に臨む学部3年生に対して事前に指導案の作成などを指導する内容の「授業設計論」の科目では、学部と附属学校の教員がTTで指導にあたり、学生の教育実習への不安を解消し、スムーズに実習に取り組むことを可能としている。

国立大学法人附属学校の「存在意義」を鮮明に

こうしたこれまでの取り組みを踏まえ、しかしそのうえで今日、さらなる課題の解明と開発的試行がもとめられている。

国立大学法人教員養成学部としての本山梨大学教育人間科学部自体にも、国立大学法人教員養成学部としての存在意義 (ミッション) を体現する学部改革の道筋を示すことが迫られているのは、周知のことに属する。文部科学大臣通知「国

立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」（平成21年6月5日付）では、殊更に、「教員養成系学部においては、教員採用数の動向も踏まえ、入学定員や組織等を見直すよう努めることとする。」との言明がなされている。

そのことは、国立大学法人教員養成学部と一体である附属学校園にも妥当する。

既に、「今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方について－国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会報告書－」（平成13年11月22日）において、大学・学部の研究への協力や教育実習への協力等本来の設置趣旨に基づく附属学校の基本的在り方や、その不十分な現状について指摘されていた。国立大学法人評価委員会「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに関する視点」においては、「附属学校は、**学部・研究科等における教育に関する研究に組織的に協力**することや、教育実習の実施への協力を行う等を通じて、附属学校の本来の設置趣旨に基づいた活動を推進することにより、その存在意義を明確にしておくことが必要ではないか。」、との指摘もある。

さらに、平成21年3月には「国立大学附属学校の新たな活用方策等に関する検討とりまとめ」が出され、附属学校の今日的存在意義を明確にし、**附属学校の特性を活かした先導的・実験的な学校教育の実践への取組みを推進**するために、まず各附属学校に即して現状と課題の分析がなされるべきだ、と述べられるに至っている。

こうした流れはますます急迫しており、国立大学法人教員養成学部としての山梨大学教育人間科学部の附属学校園においても、その存在意義の鮮明化、現状と課題の分析の全面的遂行、課題克服計画の提示が早急にもとめられている。本報告書は、文部科学省委託事業「国立大学附属学校における新たな活用方策に関する調査研究」（平成21年度・22年度）の第2年度調査研究事業の成果である。

《地域の指導的な先導的実践モデル校》の模索

本調査研究の目的は、この調査研究において、附属学校園が《地域の指導的な先導的実践モデル校》と名実ともになることを模索し、そのために、次の三つの問題意識のもとに、具体的に附属学校園に即した現状と課題を明らかにすることである。

- 「大学・学部における教育に関する研究への協力」と「大学・学部の計画に基づく教育実習の実施」という二つの役割
- 山梨県地域の学校の課題に即して、それに応える附属学校の新たな活用方策
- 地域のモデル校かつ先導的実践校としての新機軸（幼・小・中一貫指導システムに向けた検証など）等

山梨大学教育人間科学部と附属学校園の地理的一体性をさらにフル活用し、大学・学部と附属学校園とが一体となった《地域の指導的な先導的実践モデル校》を実現すること。そのために、附属学校園の現状を洗い出し、課題の解明と開発的試行の実施を継続することが肝要である。そのさいの柱は、以下のように6点に整理されるはずである。

- (1) 学部生を対象とした「教員養成」の充実。（教育実習、事前事後指導、教職関連科目、等）
- (2) 附属学校の先導的教育実践に大学・学部のリソースを総動員すること。
 - ・ 附属学校全体の教育課題を炙り出し、共有し、全体としての先導的取り

組みを明確化。

- ・先導的教育実践研究課題（学校課題）の策定・実施プロセス全般における一体的取り組み。
- ・各校園の教育充実への大学・学部リソースの積極的利用。

- (3) 教育・労働・研修条件の充実。
- (4) 交流人事を含む、地域教師教育システムの充実。「地域の指導的なモデル校」。山梨県教育委員会・センター研修との連携。「開かれた附属学校」。
- (5) そして、なによりも、これらが、生徒・教員にとっての附属学校の魅力をいや増すこと。
- (6) 上記を推進する運営組織体制の確立。（PTA 協議会を含む。）

この調査研究の2年間で、いくつもの進展があった。その詳細は、本報告書全体に散りばめられている。私にとっては、附属学校園の先生方や保護者の方々の生の声を聴く機会に学ぶことが多かった。なにより、私たちの附属学校園が地域に根差しており、その期待と支援によって成り立っていること、そこに誇りがあることを実感させられた。

そうした中で、大学の授業を附属中学校の生徒・保護者に開く「附属中学校生徒のための山梨大学特別授業」の試行、教職大学院との連携など、大学・学部リソースの積極的活用が進むとともに、中・高連携事業として山梨県立甲府第一高等学校の教員による附属中学校での出前授業の試行、各附属学校園主任クラス教員と学部教員とで課題を検討する「新共同研究会」の充実などがみられた。

いま教育人間科学部は、さきに言及した文部科学大臣通知「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」で促された教員養成系学部の入学定員・組織の見直しに対応して、教員養成の課程を現状の入学定員100人から125人に増やし、教員養成機能の強化を検討している。附属学校園の使命はさらに重大なものとなる。そのためにも今後ますます附属学校園の本来的意義である未来の教師の養成を軸にした充実と、それにふさわしい独自の質の高い教育を大学・学部リソースの積極的活用によって実現し、国立大学法人教員養成学部附属学校園としての存在意義を体現することがもとめられている。

山梨大学教育人間科学部 附属学校園における試み

中村 享史 | 山梨大学教育人間科学部・評議員
Takashi NAKAMURA

1. 附属学校園の学校間、学部、地域との連携

山梨大学附属学校園では、互いの連携を取りながら、附属学校園としての役割について積極的に調査研究を進めている。

附属学校園の活用方策については、学部教員と附属学校園の副校長や4校園連絡協議会メンバーが継続的に協議を行っている。平成22年度は、福岡教育大学、島根大学、奈良女子大学、和歌山大学、北海道教育大の学部・附属学校園を訪れ、大学・学部と附属学校園との連携の方策について調査した。

各学校間の交流も積極的に進めている。幼稚園年長児と小学校1年生は校内外での学習や運動会などの行事等に組み込みながら6月、7月、9月、10月（2回）と5回の交流を行っている。幼稚園児は1年生と遊ぶことで不安感を無くし、1年生は年少者へのいたわりなどを学んでいる。

幼稚園年長児と中学校2年生はおもちゃ遊びやおやつ作りの交流を6月、7月、9月（2回）と4回行っている。幼稚園児は中学生のやさしさを学び、中学校の生徒は園児との交流を通して幼児期の発達や遊びの大切さ、自己成長の振り返りや食育などについて学んでいる。

中学校と特別支援学校中学部の生徒は、5月に授業の様子や施設を見学し、交流を図った。特別支援学校小学部と小学校4年生は5月（2回）、6月、9月と校内学習や背景画の共同作業などを4回行い、互いに相手の様子を気づかいながら交流を深めた。互いに自分の意志を伝えようとする場面や工夫が見られた。

大学・学部との連携と同時に地域との連携も進めている。地域との連携を図るため、従来の運営協議会とは別の組織の設置を検討している。また、地域や学内から附属学校園の運営に係る意見を聴取している。その具体的実践策として山梨県立甲府第一高等学校と附属中学校との共同運営による連携事業を進めている。幼稚園では幼保一体化の動きを受け、学部幼児教育講座教員と地域の幼稚園教員と保育士が共にこれからの就学前教育を学び会える学習会を行い、11月13日に第1回目を開催し、70名の参加があった。附属中学校は、5月9日に開催された地域にある教育団体「北新教育会」に参加し要望等を聞いている。

このように附属学校間、大学・学部、地域との連携を進めている。

2. 附属学校園の教育研究

附属学校園は、教育研究を行い、その研究成果を公開している。平成22年度の各学校園の公開研究会とそのテーマについての概略を述べる。

附属幼稚園は6月19日に公開研究会を行った。「子どもが自らかかわり創り出す園生活」をテーマに公開保育、全体会、分科会事例発表、分科会事例検討、講演を行い、県内外から137名が参加した。講演は、学部幼児教育講座の加藤繁美教授が「生成する物語と保育実践との豊かな出会い」という題目で附属幼稚

園の研究と関連させて行われた。

附属小学校は6月26日に公開研究会を行った。「つながりを通して、学びの世界を広げ続ける子どもたち」をテーマに授業公開を行い、329名が参加した。活用する力としての思考力・表現力・判断力を育むことを視野に入れた提案授業として16授業を公開している。授業実践と理論をもとに分科会で議論を行っている。分科会の指導助言者は、各教科に関連する学部教員、山梨県教育委員会指導主事、山梨県総合教育センター研修主事である。公開研究会当日だけでなく、事前研究会にも参加し、指導案の検討を行っている。また、研究協力員として山梨県各地の公立小学校の教員も参加している。講演は、早稲田大学大学院教職研究科の田中博之教授が「言葉の力を育てる活用学習のありかた」という題目で行った。ここでの研究を受けて、2月7日には、指導助言者、研究協力員を含めて、冬季学習会を行い、来年度の研究の方向性について議論している。

附属中学校は10月23日に公開研究会を行った。「知の再構成を目指して―「かかわり」を生かした学習過程の工夫―」をテーマに授業を公開し、県内外から245名が参加している。研究は、「かかわり」(学習内容の関連性)を生かした学習課題・活動の設定、伝える学習活動、学びの評価を柱として、公開授業、分科会を行っている。分科会の指導助言者は、各教科に関連する学部教員、山梨県教育委員会指導主事、山梨県総合教育センター研修主事である。研究協力員は、山梨県内の公立中学校の教員である。事前研究会を2回行い、公開授業の指導案検討を十分に行っている。

附属特別支援学校は、1月19日に公開研究会を行った。「子どもの明日へ「つなげる」特別支援教育の実践―今、求められる授業づくりとは―」をテーマに授業公開、ポスター発表、分科会、レクチャーを行い、県内外から300名が参加した。よりよい授業づくりの具体的なあり方を探ると共に、「身体の動き」の目標に応じた効果的な支援を追究している。分科会の指導助言者は、山梨県教育委員会指導主事、山梨県総合教育センター研修主事で、共同研究者として学部教員が関わっている。レクチャーは、国立特別支援教育総合研究所の海津亜希子主任研究員が「今、特別支援教育を問う―通常の学校や特別支援学校に求められていることは―」という題目で行った。ポスター発表は、地域の特別支援学校と連携して研究の交流を行っている。

附属学校園の教育研究は、山梨県教育委員会、学部と連携をして、山梨県内外の教員に公開し、常に意見交換を行いながら進められている。

3. 附属学校園における教育実習

附属学校園は、学部3年生の教育実習を行っている。附属学校園の教員は、授業設計論(事前指導)、授業実践論(事後指導)の講師として携わっている。平成22年度は、附属幼稚園15名、附属小学校76名、附属中学校55名、附属特別支援学校20名の学生が教育実習を行った。

平成22年度は、教育学研究科に教育実践創成専攻(教職大学院)が設置され、附属学校園も連携協力校になっている。附属小学校では、6月から12月まで小学校の現職教員を1名受け入れて、学級経営、授業などの実習を200時間行っている。附属中学校では、9月から11月まで高等学校の現職教員を1名受け入れて、数学科の授業やカリキュラムづくりなどの実習を90時間行っている。

附属学校園は、教員養成にも積極的に取り組み、学生指導を行っている。

附属学校園研究プロジェクトの概要

栗田 真司 | 山梨大学附属学校園研究プロジェクト・統括リーダー
Shinji KURITA

1. 研究テーマ

「国立大学附属学校における新たな活用方策に関する調査研究」

2. 研究の背景

平成 13 年 11 月 22 日「今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方について－国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会報告書－」において、大学・学部への研究への協力や教育実習への協力等本来の設置趣旨に基づく附属学校の基本的在り方や、その不十分な現状について指摘されている。

また、国立大学法人評価委員会によりとりまとめられた「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに関する視点」においては、「附属学校は、学部・研究科等における教育に関する研究に組織的に協力することや、教育実習の実施への協力を行う等を通じて、附属学校の本来の設置趣旨に基づいた活動を推進することにより、その存在意義を明確にしていくことが必要ではないか。」と指摘されたところである。

これらの趣旨を踏まえ、大学・学部と附属学校の連携のもと、附属学校の現状・課題を分析し、地域の指導的なモデル校として活用されるよう、今後の在り方および新たな活用方策について調査研究を実施した。

3. 研究目的

(1) 本研究の目的

国立大学法人の附属学校には、従来から「大学・学部における教育に関する研究への協力」と「大学・学部の計画に基づく教育実習の実施」という 2 つの役割があったが、教員免許を卒業要件とする学生定員の縮減や私立大学による附属学校の設置などによって、こうした本来の機能の根拠が弱まりつつあり、またその存在理由が問われるようになってきている。平成 21 年 3 月の「国立大学附属学校の新たな活用方策等に関する検討とりまとめ」においても附属学校の今日的存在意義を明確にし、附属学校の特性を活かした先導的・実験的な学校教育の実践への取組みを推進するために、まず各附属学校に即して現状と課題の分析がなされるべきだと述べられている。

山梨大学の附属学校園は、すべてが教育人間科学部キャンパスに隣接し、半径 1 km 以内に集中して存在している。こうした地理的な特性を活用し、附属学校園はこれまでも学部の教育・研究の場として重要な役割を果たしてきている。その内容は、教育実習の場、またその教育実習の事前・事後指導のグループワーク型指導への全面的協力はもとより、学部の教職科目に附属学校の教員が協力する

取り組み、そして、学部・学部教員の実験的研究の場としての活用、地域に開かれた研究成果の公開にわたっている。

こうした取り組みを学部に置かれた附属学校運営協議会が統括してきた。それは、学部長を委員長とする学部執行部と附属学校校長・副校長とで組織されたものである。また別に、山梨大学教育人間科学部の教育研究活動を外部識者の意見を取り入れて点検し新たな方針を立てるために、山梨県教育委員会・甲府市教育委員会等教育界代表で構成される教育研究協議会が設置されており、そこでも、定期的に附属学校の新たな活用方策をめぐる議論が進められてきている。

附属学校運営協議会では、学部としてこれまでの取り組みをいったん全面的に総括し、国立大学法人の附属学校としての存在理由を鮮明にするために、山梨県地域の教育課題に即して、そのデマンドに応える新たな活用方策を調査研究する必要性を認識し、平成21年4月より附属学校園の新たな活用方策に関する調査研究プロジェクトを学部教員を中心に発足させた。

本調査研究によって、これまで培われた運営機関（附属学校運営協議会・教育研究協議会等）での議論を促進し、山梨県地域の学校の課題に即して、それに応える附属学校の新たな活用方策が明らかにされると期待されている。

本研究の目的は、国立大学法人の附属学校園の今日的存在意義を明確にするために必要な施策事項を洗い出し、地域や大学・学部と連携した附属学校園の新たな先導的・実験的な取り組みの試行的研究を実施して、新たな活用方策を探求することである。その中には、県教職員人事政策の中での附属学校の高い位置づけと役割、地域のモデル校かつ実験校としての新機軸（幼・小・中一貫指導システムに向けた検証）などが含まれる。

(2) 21年度の研究実績

平成21年度には、以下の6つの事業を実施した。

①附属学校園の関係者による課題発見ワークショップ

各附属学校園の教務主任や研究主任などが集まって、教育、研究、運営上の課題を出し合い整理した。その結果、目指す方向として、先進研究校と地域のモデル校との間で意見が分かれた。また、人事や待遇への不満も数多く出された。

②本学附属学校園のこれまでの活動実績と現状に関するヒアリング調査

山梨県の教育関係者や元附属学校教員に対するヒアリング調査を実施し、インターネットの教育利用でかつて全国的に注目された附属小学校の先進的な教育研究がなぜ可能であったのか、甲府市や山梨県との教育、研究、研修、人事交流の連携の可能性などについて意見を聴取した。

③山梨県下の教育関係者に対するアンケート調査

ワークショップとヒアリング調査の結果をもとに、調査項目を設定し、山梨県教育関係者、附属学校教員（5年以内退職者含む）、保護者、学部教員に対してアンケート調査を実施した（配布数1766、回収数1258）。先進的な役割、地域と連携したモデル校的な役割ともに実績が評価されており、目指すべき方向でも両者同様に期待されていることがわかった。また、自由記述には、附属高校を望む声や幼稚園から高校まである私立との差異化の声などがあげられた。

④附属学校の特色ある活用を進める秋田大、滋賀大、神戸大、佐賀大の各附

属学校園への実地調査

秋田大学の教科教育関連講座が附属学校と学部のパイプ役をする仕組み、滋賀大学の学部教員と附属教員による共同研究組織、神戸大学の大学附属としてマネジメント機能を発揮する改革、佐賀大学の学部教員と附属教員が一緒に附属で授業をする試みなど新たな活用事例について調査した。

⑤「第1回附属学校園フォーラム」を山梨大学赤レンガ館コミュニティーホールにおいて開催

公開研究会に1000名以上が集まったインターネットの教育利用先進校だった時代の講演、地域との連携を進めるための方策についての講演、アンケート調査結果の概要説明の後、自由討議があり、学部教員とのさらなる連携が必要、理数教育で先導的な取り組みをするべきなどの意見について協議した。

⑥調査研究報告書『国立大学附属学校園の現状と課題』を刊行した。

4. 本研究の特色および期待される成果

国立大学または学部附属する附属学校は、全国56大学に262校あるが、上述のように、現在、その「存在意義」を鋭く問われていることに関しては共通している。したがって、各附属学校園において現状把握と新たな活用方策に関する模索が進められつつある。

本学の附属学校園においては、平成21年度において、現状と課題について明らかにする総合的・包括的な調査研究を実施し、本学附属学校園の問題点・課題を洗い出した。特に、山梨県下の教育関係者や保護者、本学附属学校園の教員へのアンケート調査によって附属学校園がどのように認知され、また期待されているのかについて明らかにした。これには、山梨県教育委員会の全面的協力によるものであり、本プロジェクトにはその代表として義務教育課長が参画している。

そのうえでさらに今年度は、本学附属学校園の今日的存在意義を明確にするために必要な附属学校園の新たな活用方策等を試行・検証した。

山梨大学の附属学校園は、教育人間科学部に隣接した地理的な特性を活用し、これまで親密な連携を積み重ねてきており、今回も集中的な協働体制で進めることが可能である。また、前述した附属学校運営協議会、および山梨県教育委員会・甲府市教育委員会等教育界代表で構成される教育研究協議会において、定期的に附属学校の新たな活用方策をめぐる議論を進める。

本調査研究によって、こうしたこれまで培われた運営機関での議論を促進し、山梨県地域の学校の課題に即して、それに応える附属学校の新たな活用方策が具体的に明らかにされると期待される。

平成22年度 <現状と課題を踏まえた新たな活用方策に関する調査研究>

- ①平成21年度に実施した山梨県下の教育関係者を対象とするアンケート調査の詳細な分析を行った。
- ②地域の教育界が求める附属学校の方向性、新たな活用方策について、関係者へのヒアリング調査、協議を行った。
- ③附属学校の特色ある活用を進める福岡教育大学、島根大学、奈良女子大学、和歌山大学、北海道教育大学の各附属学校園を実地調査した。
- ④附属学校の課題を整理し、新たな活用方策について検討し、試行できる内容

について検討する附属学校園研究プロジェクト推進会議を適宜開催した。

- ⑤地域の教育課題を踏まえた「先導的・実験的な取り組み」例を試行・検証した。具体的には、理数教科の教育に特徴を置いた一貫的な教育の検討を始めた。これらの試行には、4月に発足した教職大学院の担当教員や院生もかかわった。また、地域の県立高等学校を附属中学校との連携校、学部との連携校として位置付けられないかという協議を山梨県との間で始めた。具体的には、附属学校園に最も近い山梨県立甲府第一高等学校との間で連携の具体化に向けた協議を始めた。
- ⑥日本に比べ長期間、教育実習に参加することが義務づけられ初等・中等教育の教諭になるには、5年間のコースを受講しなければならないフィンランドのヘルシンキ大学附属 Vikki 教師教育学校（幼稚園から高等学校）とヘルシンキ大学附属中・高等教師教育学校、また、附属学校はないが、近年、地域の教育実習校との関わりを強めるスウェーデンのコミュニオン立小中学校について調査を行った。
- ⑦「第2回附属学校園フォーラム」を山梨大学赤レンガ館コミュニティーホールにおいて開催した。附属学校園の教諭、山梨県教育関係者、保護者、地域住民、教育人間科学部教員、学生に参加を働きかけた。
- ⑧調査研究報告書『国立大学附属学校園の新たな活用方策』の刊行。

また、附属学校園の新たな活用方策として、これまで本プロジェクトにおいて協議してきた提案には、次のようなものが含まれている。

- ①教育職員免許法の改正によって、平成21年4月より教員免許更新制が実施されている。実際の更新講習は、地域の大学が担うことになり、その殆どは座学形式で行われることになるが、免許更新講習の一部を実践形式によって附属学校園で実施すること、あるいは附属学校園の教員と大学教員が共同で更新講習を担当することを試みる。
- ②山梨大学の附属小学校は、我が国で最初にインターネット接続をした小学校であり、インターネットの教育利用でかつては実績を有した。こうした先導的な教育研究を今回は理数教科の教育を例にして試行する。特に、平成22年4月開設の教職大学院との連携を検討する。
- ③附属学校の教員が大学の授業を担当する取り組みは、実地指導講師事業として以前から実施されているが、これをさらに進めて、大学の教員が教育研究実践の一環として附属学校で授業を行う、研究会で附属学校園の教員と学部教員が共同で授業を計画・実践するなどの活動を試みる。
- ④地域の教育委員会と連携して地域の教育課題を踏まえた調査研究テーマを設定し、調査研究を進めることについて検討する。
- ⑤山梨県総合教育センターの機能を補完する地域研修実践校としての役割を検討する。
- ⑥本学の附属学校園は、学部キャンパスに隣接している。この立地条件を活かした連携、協働事業を考案する。その際には、大学の附属施設であり、4つの附属学校園の中央に位置する赤レンガ館コミュニティーホールを有効に活用する。
- ⑦幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の附属4校園が連携した統合的な教育活動を試行する。具体的には、幼稚園と小学校4年生までと小学校5年生

から中学校3年生までの2つの発達の区分による教育活動・内容について検討する。

- ⑧ 附属高校の代用的な学校としての役割を果たす地域の高等学校との連携について検討する。
- ⑨ 「国立大学法人附属学校園の新たな活用方策についての提言」を作成する。

このうち、本学と山梨県との連携が密であるという実績と現状を活かして、特に⑤の県の研修実践校としての機能と⑦の4校園が連携・協働した教育課程編成を中心に検討していく。⑤は、山梨県の教職員人事政策の中に附属学校での勤務を重要な研修として組み込むこと、および、それに相応しい地域のモデル校としての「先導的・実験的な取り組み」の場となることが、基本として構想されるものである。⑦は、将来的に幼・小・中一貫指導システムの構築を目途として取り組まれるものである。③と⑧については、実現の可能性が高い内容であるので、実践にまでたどり着きたい。

また、この2年間の調査研究の総括として、⑨「国立大学法人附属学校園の新たな活用方策についての提言」をまとめる。各附属学校園の現状を考慮しつつ、この提言に示された新たな活用方策が、各附属学校園の改善の具体的な指針となることを意図している。

5. 事業の実施体制

氏名	所属	役割分担
寺崎 弘昭	教育人間科学部長	研究の総括と評価
宮澤 正明	附属中学校長	中学校事業担当
吉野喜久男	附属中学校副校長	中学校事業担当
岩永 正史	附属小学校長	小学校事業担当
末木 隆	附属小学校副校長	小学校事業担当
廣瀬 信雄	附属特別支援学校長	特別支援学校事業担当
小澤 直樹	附属特別支援学校副校長	特別支援学校事業担当
森田 秀二	附属幼稚園長	幼稚園事業担当
武川はる美	附属幼稚園副園長	幼稚園事業担当
中村 享史	教育人間科学部教授	調査研究企画担当
栗田 真司	教育人間科学部教授	調査研究企画担当、報告書担当
服部 一秀	教育人間科学部准教授	ヒアリング調査担当
高橋 英児	教育人間科学部准教授	ヒアリング調査担当
新野 貴則	教育人間科学部准教授	報告書担当
古屋 義博	教育人間科学部准教授	ヒアリング調査担当
秋山 麻実	教育人間科学部准教授	調査研究企画担当
堀之内陸男	山梨県義務教育課長	調査研究企画と評価担当

山梨県立甲府第一高等学校教員による 附属中学校への出前授業



平成 21 年度に山梨大学附属学校園研究プロジェクトが実施した「附属学校園の現状と課題に関するアンケート調査」によると、附属高校がないことを課題としてあげる保護者が相当数にのぼることが明らかとなった。これに対して、山梨大学教育人間科学部では、これまで附属学校の活用、地域との連携をはかる目的で、附属中学校と近接の山梨県立甲府第一高等校との間で部活動や学園祭での生徒間の交流、高校教員の中学校での授業、両校の教員の

参加による授業の検討会の開催などさまざまな取り組みが行われてきた。ここでは、平成 22 年度に実施された山梨県立甲府第一高等学校教員による山梨大学教育人間科学部附属中学校への出前講座の試行事例を示す。

日 時 平成 22 年 12 月 2 日 (木) 13:30 ~ 14:20 (5 校時) 授業
14:25 ~ 研究協議・意見交換
場 所 山梨大学教育人間科学部附属中学校 3 年生教室他
対 象 山梨大学教育人間科学部附属中学校 3 年生 158 名

I 授業担当者・内容

- 国 語** 担当者 雨宮絹枝
内 容 「現代の世界にはなくて古典の中にあるもの」(説話を読んで考える)
- 社 会** 担当者 小宮山 隆
内 容 「山梨の遺跡について」
- 数 学** 担当者 西室直哉
内 容 「わかる できる 追求する 数楽へのいざない
—自然数・整数を題材に—」
- 理 科** 担当者 標 輝人
内 容 「パンデミック・シミュレーション」
新型病原菌に見立てた薬品を用いた簡単な感染シミュレーション。結果から、感染経路の推理、感染源の特定に挑む。また、その対策も検討する。
- 英 語** 担当者 劔持 澄子
内 容 「読める! 楽しい英文記事」

II 研究協議・意見交換会次第

- 1 はじめのことば
- 2 副校長・校長あいさつ
- 3 研究協議・意見交換
 - (1) 授業者発表（意図・感想など）
 - (2) 附属中学校の先生方からの感想・意見発表
 - (3) 意見交換

III 授業者感想

雨宮先生（国語）「現代の世界にはなくて古典の中にあるもの～説話を読んで考える～」

1時間ということなので何をしたらいいか考えて、古典の世界が持っている豊かな世界を現代のいろいろな状況の中で感じてもらえたら良いということで、最近読んだきつねが人を化かす話をきっかけにして、古典の世界で現実を超えたもの、人の心とかを豊かにとらえるという側面を感じてもらいたいという思いで行った。

上手くできなかったが、すばらしい答えをしてくる生徒がいて、正直驚いた。授業をさせてもらって良かった。

小宮山先生（社会）「山梨の遺跡について」

歴史について考古学の話絡めながら行った。生徒が知らないことを、ただ学んで覚えなければいけないという部分もあるが、なぜ歴史が変化していくのか、その変化する社会の中身はどうなのだろうかということを考えることは、中学校でも高校、大学も同じだが、そういう中で歴史の資料をいろいろな角度から見ることによって、様々な解釈が生まれるんだという話をしながら、新たな知識を覚え、習得していく、そういう積み重ねが高校の歴史の授業なんだということが伝えられればいいかなと思いながら授業をした。生徒達に話し合ってもらったり、考えてもらったり、あまり時間は取れなかったが、一生懸命考えてくれ、発言もしてくれたため、予定していた分量が進めなかったが、充実した1時間を過ごすことができた。

西室先生（数学）「わかる できる 追求する 数楽へのいざない～自然数・整数を題材に～」

数の話、数の世界、自然数、子どもが最初に覚える数1、2、3、4、カラスは5以上は沢山という話を入れながら、素数の話に移り、エラトステネスの篩で素数を見つけていく方法とか、宮川先生が授業でされてるということを知ったので、実際に作業をしてもらいながら、素数を見つけていく方法をやってみた。最初に言った数学という教科が何でそうなるんだろう、答えが出て○をもらって、それでOKにしない。追求するというタイトルをつけたのは、「どうしてそうなったのかなあ」「でもこれってこうじゃない」ということを、できれば子ども達同士の中で話をしてもらいたい。高校の授業をやっていて、すぐに答えをほしがって、答えを見て○だったらOKだ。でも本当は×だったときの方が大事で、何

で間違えたのかという所に本当の意味、勉強があると思う。数学という教科が敬遠されがちな所がある、でも来ていた生徒達はいい顔でこっちを見てくれた。()を使いながら並べたりしたが、そういう中でリアクションを見ながら、できる子もいて「すげえ」なんて言いながら、お互いをそれぞれの感覚で見てるのかなということも感じながら、50分という短い時間だったが、楽しくできた。

標先生（理科）「パンデミック・シミュレーション」

理科は難しい内容も教科書には出ているが、実生活の中の自然現象に興味を持ってもらい、それを科学的に理解してもらおうということを目指して行っている。今回は、鳥インフルエンザウイルスが話題となっているので、これを使って実際に新型のウイルスが蔓延していく様子を簡単な実験でシミュレーションした。理科なので実験の一つ入れた方が良くということと今話題になっていることをそのまま教材に取り入れた。生徒が上手く動いてくれ理想的な結果も出たので良かった。

劔持先生（英語）「読める！楽しい英文記事」

英語も教科書だけで英語を勉強するのではなくて、今起きていることとかを英語でどんどん情報を自分から入手して、それを読んだりするという本来の目的に気付いてほしい。また、紹介したいということで、中高生にも読める雑誌の記事を選び、カラー印刷して生徒に配った。生徒も興味を持ってくれた。アップトゥデートな情報を読み取って、読み取るだけでなく、読み取ったものを人に発信しなければいけないというのも英語教育の一つの目標になっている。映画の内容が紹介されているので、それを自分の言葉で英語でもう一回書き直して、それをダイアログで友達と会話をする中で、映画の紹介をするという設定で50分の中で全てを取り入れて行ったが、生徒の反応が良くて、やっぱり英語が好きな生徒達が集まってきている授業なので、活気付いた形でやることができた。英語が好きになってもらえると、こんな風に全てを取り入れることができる。リスニングもスピーキングもリーディング、ライティングも全てを一つの授業の中で実践することができた。生徒に恵まれていい授業ができた。

IV 授業アンケート結果

1 あなたのクラスと性別を教えてください。

組	1組	2組	3組	4組
男	19	18	16	19
女	18	18	17	19
計	37	36	33	38

2 受けた授業は次のどれですか。

教科	国語	社会	数学	理科	英語
人数	29	25	30	34	26

3 授業は興味を持てる内容でしたか。

教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計
(1) 大変興味ももてた	17	12	19	29	13	90
(2) 興味が持てた	9	13	11	1	13	47
(3) どちらともいえない	1			1		1
(4) あまり興味を持てなかった	1					1
(5) 全く興味が持てなかった						
無 答	1			3		4

4 授業はわかりやすかったですか。

教科	国語	社会	数学	理科	英語	合計
(1) とてもわかりやすかった	21	20	20	30	20	111
(2) どちらかといえばわかりやすかった	8	5	10	2	5	30
(3) どちらともいえない				1		1
(4) どちらかといえばわかりにくかった					1	1
無 答				1		1

5 生徒の授業の感想

【国語】

○今、失われつつある、信じる心を考えることができる授業でした。信じることでこれからをよりよくすることができると思いました。

○「現代の世界にはなくて、古典の中にあるもの」というテーマで国語の授業を受けた。一つの文章（古典）を読むだけでもこのテーマを考えることができるということに驚いた。また、確かに現代の世界にはないな…と納得することができ、もっと古典について知りたいと興味を持つことができた。

○科学で解明できないものを大切にしたいと思った。古典には、学ぶべきことがたくさんあると思い、発見を見つけたいと思いました。昔のことを知り、今を見つめることができる機会は古典がほとんどであると思うので、大切にしたい。

○科学がもてはやされている時代で、こういった昔のもの、古典等に目を向けることによって技術が進歩するその過程で見失われたものを見つけ出すことができるのだと思った。

○「現代の世界になくて古典の中にあるもの」というテーマで、古典のおもしろさや普段考えないようなことについて考えられた。高校の授業が楽しみになりました。

○古典があまり得意ではなかったんですが、この話はおもしろかったです。こんど、そういう話のついている古典を読みたいです。また、そういう話を信じることのできる世界になったらいいな、と思います。

○古典には自然や心といった科学では解明できないことに対する昔の人の思いや信じていたことが書かれており、それを学ぶことができるというのが古典に対する新たな発見でした。古典を読み解くのはあまり得意ではないのですが古典に

対する気持ちが少しかわり、これから楽しく古典を読めるようになると思います。

【社会】

○縄文時代については、小学校、中学校で少し学んでいましたが、今回みたいに詳しいところまで説明してくれる授業は経験したことがなく、とてもよい経験となりました。また、高校の授業がどんな感じかがわかってよかったです。

○授業の中で世の中には色々な考え方があって、そのなかの一つの考え方だけを知っていればいいわけではないことを学びました。これからも本当にそうなのかというように自分で疑問を持たてほしいと思いました。

○遺跡については一度も学んだことがなかったのでどんなことを教えてもらえるのかな、と思いました。遺跡の数について人口、気象、土地などをふくめ、いろいろな解釈があることがわかりました。別の視点からも物事を考えることが大切だと思いました。

○歴史とは奥深いなあと思った。一つのことにはばられたら本当のことはみえないということがわかりました。

○中学校では詳しくは習わない、縄文時代の細かい時期も知ることができてよかったです。遺跡数が最も多いのは中期ということにそれには気候などにも関係していることがわかりました。授業前と比べて授業を受けて、もっと詳しく調べたい！と思いました。

○一つの視点からではなく、複数の視点から歴史を見ることが重要だとわかった。高校に入らないうちに、歴史をみる「視点」をつくりたいと思った。

○私は社会が苦手なので少しでも好きになれるようにと思って社会を選んだのですが、とてもわかりやすい説明で、社会ってこんなに楽しいものなんだ！と思いました。

【数学】

○授業で学習した内容を詳しく考えたりして、「そういうしくみだったのか」と納得しました。また、数の話を聞いて、数字は昔から考えられていたこと、数学の考え方を知りました。今まで知らなかったことを学べておもしろいと思いました。

○とてもおもしろく、数というのはいろいろな書き方があったと知りました。算木の使い方がいまいちわからなかったもので、調べてみたいです。また、0についても調べてみたいです。

○やはり、数学は、中学のような内容とは全く違って、もっと専門的なことで難しいなとおもいましたが、私の知らなかった世界について知ることができて、「数学っておもしろいな」と思えるようになりました。

○私は数学が苦手なのですが、とても分かりやすく、楽しい授業でした。自分の知らなかったことをたくさん学べてよかったです。プリントの最後まで授業を受けたかったと思いました。

○授業を受けてみて、ただ教科書のことをやるのではなくいろいろ発展的なことをやるだけでこんなにも興味がわいてくるとは思わなかったです。また高校に行くのが楽しみになりました。ぜひ、またこのような機会があったら受けてみたいです。

○私は、数学は好きだけれど、得意なわけではないです。だから最初は全然わ

からないが、すぐにわかってしまったらそれはそれでつまらないし…。今日の授業も最初はわからないことだらけだったけれど、答えがわかったときの「あっ！なるほど！！」という感覚がとても気持ちよかったです。

○私は今まで数学があんまり好きではなかったのですが、自然数の中にもこんなに種類があることとか原理を今日知ることができました。数学は奥が深くて、すごく興味がわき、とてもおもしろかったです。

○「数」というものに今まで興味を抱きませんでした。今日の授業を通じて「数」のナゾを追究したいと思います。

[理科]

○元の感染者捜しや、何分たつとどれくらいか調べるのはすごく楽しかった。点が足りるのなら入学したい。

○実際に感染の経路を実験することで、楽しくやることができました。また、その速さがとても速いことに驚きました。とても分かりやすかったので、楽に理解できとても充実した時間を過ごすことかできたと思います。今後、どうしたら感染防止につながるかなど、自分の考えを深めてゆきたいです。

○今まであまり生物が好きではなかったのですが、興味を持って考えることができました。こんどは空気感染について学んでみたいなと思いました。

○感染を自発的に起こすことで、その広がり調べられておもしろかった。パンデミック（感染爆発）がおきないためにも日ごろの手洗いうがいをしっかりしたいです。また、インフルエンザをもっと注意したいと思いました。

○こういう実験はやったことがなかったので、とてもおもしろいなと思いました。また、感染する力は怖いし、すごいんだな実感しました。高校と中学は実験も少し違いがあるんだなということが分かりました。例えば、今回のをやって、高校は自分から学ぶ感じがとくにしました。

○今、問題となっているインフルエンザの感染をととても身近に感じた授業でした。今まで、感染者に接触すると感染することは知っていたけれどもそれが、いつ、どこで、だれから、ということまでわかることに驚きました。インフルエンザなどの感染症などのニュースが流れたときには、今回のこの授業で学んだことについて考えてみようと思います。

○第一希望の理科が出来て良かったです。授業も予想以上に面白くて、楽しみながら学ぶことができました。なかなか普段考えないようなことを、実際に体験しながら考察することができました。理科への興味が深まりました。

○すごく楽しかったです！！計算もわかりやすくよく理解できました。計算によって感染シミュレーションができるなんてすごいです！、また、イメージも非常にしやすかったです。

○とても興味を持って授業に取り組みました。高校の授業の様子が何となくわかり、楽しみになった。ぜひ、今回のような授業を受けてみたい。

○「アメリカの細菌研究所にいつてみたい」と思っていたので、今日のテーマはとても興味深いものでした。内容的にもおもしろく、もっとやりたい！と思いました。高校でもっと深く学びたいです。

[英語]

○今日一日で英語がもっと好きになりました。自分で文を考え、つくることは、

はじめ「うちにはムリだ。」と思っていたが、今まで習った文法を使って一文一文しっかりとつくることができました。それを人に伝えることまで英語大好き？

○全て英語で日本語が全く使われていなかったことにびっくりした。難しかった。けれど身近な映画を使ったので慣れやすかった。

○まさに今!!なものを英語でやったので興味を持てた。英語ではどうしても文法に偏りすぎてしまうのだけれど、このように知っていることを話してみるといいなと思った。また授業がすべて英語のみで行われたのも新鮮で中学との違いを感じた。

○中学の授業は、先生が多くを日本語で話すか、高校の授業は全て英語でとても英語に触れる時間が長かった。聞くだけでなく、自分の持っている知識を実際にコミュニケーションとして活用できることもすごく刺激になりました。

○単語の意味がわかれば、英語で書かれている文章でも、私たちにも読めるものがあるということがわかりました。また、今回は映画のストーリーの内容を自分で訳して読めて嬉しかったし、とても楽しかったです。この授業を生かして、これから自分でも、何かこのようなものを探してみたいなあと思いました。

V 附属中学校生徒が持っている一高のイメージ

○家が一高に近いし、小学校の時も毎日一高の部活をやっているところも見ていたので、高校といえば一高!という感じですか。

○とても伝統がある学校で、少し生徒の雰囲気似ているなど、附属中との共通点も多いなと感じる。

○附属中に近い。

○今まで正直、イメージがわからなかったのですが、授業がわかりやすくとてもいい先生に教えてくれたので、とてもいい雰囲気の学校なのかなーと思いました。

○伝統のイメージがある。周り(近所)に一高を出ている人がたくさんいるんですけど、みんな夢に向かってがんばっている人たちで、一高は夢をかなえられるというイメージがある。

○一高はとにかく何ごとにも一生懸命取り組む学校だと思います。オープンスクールにも参加させていただきましたが、すごくいい雰囲気でした。

○私は一高に入りたいと思っているし、こんな楽しい授業をしてくださる先生がいらっしゃるということがわかり、さらによいイメージを持ちました。一高は、明るく楽しそうなイメージもあり、あこがれです。

附属中学校生徒のための 山梨大学特別授業



2011年3月5日に山梨大学教育人間科学部において「附属中学校生徒のための山梨大学特別授業」が初めて行われた。このプログラムでは、大学の講義室で附属中学校の生徒及びその保護者を対象とした7つの授業が開講された。附属中学校をもつ教育人間科学部だけでなく、工学部や医学部の教員も授業者として参加した。大学・中学・PTAの共催により行われたが、運営には、附属中学校の保護者が携わった。

日 時：2011年3月5日（土）10：00～

場 所：山梨大学甲府キャンパス

参加人数：200名（生徒111名、保護者61名、附属中学校教員12名、大学教職員13名、大学生3名）

1 開会式（全体会） 9:15～

特別授業の開講に先立って開会式（全体会）が行われた。最初に附属中学校PTA役員より「本日の授業では、中学生の皆さんは、未来にワーブして大学生になってください。PTAの方は、タイムマシンに乗って、学生時代へと戻って



ください。そして、楽しく授業を受けてください。」と開会の挨拶があった。その後、寺崎弘昭教育人間科学部長、宮澤正明附属中学校長及び小林成光PTA会長より挨拶があった。

2 特別授業 10:00～12:00

開講された特別授業と生徒と保護者の感想は以下のとおりである。

【授業 1】

「てんぷら油から車の燃料を作ろう！」

講師：竹内 智（工学部）

概要：ほぼ100%の食用油は外国から輸入されたものです。しかも、使い回しで黒くなった廃食用油はほとんどが捨てられています。ところが、廃食用油は車の燃料（バイオディーゼル燃料：BDF）としてリサイクルできます。あなたの家庭にある廃食用油からBDFを実際につけて、身近なりサイクルを体験してみましょう。

時間：10:00～12:00

教室：工学部B2号館化学実験室

その他：家庭の廃食用油をペットボトル1本（500ml）に入れて持ってきてください。

振り返りシートの自由記述：

<生徒>

○家庭の油で燃料や石けんをつくって、いろいろ面白かったです。燃料を作る途中の60℃のお湯であたためながらガラス棒でまぜるときが一番たいへんでした。いい経験ができてよかったです。

○BDFを山梨交通に売って、バスをすべてBDFにすれば、少しは環境が変わるのではないかと思った。ガソリンスタンドで売れば、トラックなどもBDFになるのもっと環境がよくなるのではないかと思った。

○今回、大学の授業を受けてみて、貴重な体験になったと思います。普段使えない道具や薬品など、とても良かったと思います。

○大学の先生の授業をうけることができ、良い経験になった。面白い授業だったので、また特別授業を実施してほしい。

○今まで知らなかったことなどのしくみなどを知ることができました。とてもためになりました。次あったらまた参加したいです。

【授業 2】

「クリーンな社会と燃料電池」

講師：内田 裕之（クリーンエネルギー研究センター）

概要：現在のガソリン、天然ガス、灯油などの化石燃料を燃焼したエネルギーは便利な反面、さまざまな問題点があります。利便性を損なわずにクリーンな社会を実現するための燃料電池の原理と応用について、演示実験をまじえて解説します。

時間：10:00～11:30

教室：Y号館12教室

振り返りシートの自由記述：

<生徒>

○燃料電池の技術に関することもあったけれど、さらに大学のことについても教えていただき、色々将来のことを考えるきっかけになったと思う。

○今日のような、科学技術のことにプラスして、大学などのことにもふれてもらえるような授業を受けてみたいです。

○「大学」とは？という内容で、大学という場所を説明してくれるような機会が欲しいと思った。

○クリーンエネルギーの講座を受けました。少し分子などの内容は難しかったけれど、どれも私にとって、新しい発見でした。今の研究者たちは、みんな頑張っていることを知りました。また、勉強は役立つのだなあ、と思いました。

○自分のためになる内容だったらなんでも受けてみたいです。来年も参加するので、また、お願いします。

○先生はとても親しみやすく、質問や感想にも丁寧に答えてくれて、とても嬉しかったです。これからも研究をがんばって下さい。

○燃料電池自動車と電気自動車は同じだと思っていました。けれど今回の講座で違いが分かっておもしろかったです。山梨大学のクリーンエネルギーセンターでは、全国でもすごいところだということも分かりました。将来について何も考えていませんでしたが、この燃料電池などの科学の仕事もおもしろそうだと感じました。もっと深いところまで知りたいと思いました。

○今回授業を受けて、テレビや新聞でしか聞いたことがなかった「燃料電池」というものが、説明を聞いて少し身近になった。また、燃料電池だけでなく、将来の話や学者さんの話など、多くの豆知識が増えてとってもおもしろかったです。これから何か調べる機会があったら「燃料電池」を調べてみたいです。

○今回授業を受けて、今まで私と無関係とっていいほど関わりがなかった燃料電池について知ることができ、すごく身近に感じることができました。また、今後の進路について考えさせられるきっかけとなり、良い経験になりました。

○私たちはもうすぐ高校生になり、自分の進路に向けて向き合う機会があると思うので、今回のことを参考にしていきたいです。

<保護者>

○ちょっと欲張りかもしれませんが、複数の講座を受けられるようになるとういなと思いました。

○年に2～3回、こうした機会があるとよいと思います。

○クリーンエネルギーセンターやナノ研究センターにも行ってみたいになりました。大学の研究、授業の内容に触れることも大切ですが、大学の施設や大学の先生と触れる、ということも、子どもにとっては、大きな経験になると感じました。世界を広げるきっかけになればと思います。

○中学生対象でしたので、保護者の私にもとても聴きやすく良かったです。又、大学っておもしろいことをする所なのだと、生徒が感じたと思うので、ますます勉強に熱心に取り組んでくれる様に感じました。

○中学生向けにわかりやすく、また将来の進路選択に向けての勉強のことなども含めて、話をしてくださいました。保護者も学生に戻った気持ちで刺激を受けました。

○久しぶりの授業で興味深く受講出来ました。楽しかったです。内容は”さわりだけ”で、むしろ授業後半の、これからの進路の話の方が、子どもたちに大切だった様な気がします。

○どのような内容であっても、実力の有る大人が自信を持って語る内容に、子どもにとってムダな話は無いと思います。

【授業 3】

「健康って何？ 一骨の健康の話」

講師：宮村 季浩（保健管理センター）

概要：人が幸せに生きていくために大切なことは、ずっと健康でいられることです。健康は、ただ病気でないだけではありません。皆さんは健康って何か考えたことがありますか。健康について考えることは医学の大きな仕事の一つです。この授業では、骨の話を中心に健康について考え、医学がそのために何をしているのかお話しします。

時間：10:00～11:30

教室：Y号館13教室

振り返りシートの自由記述：

<生徒>

○今日は、骨のことだけでなく、ダイエットや身体のことについて、すごくよくわかった。骨は、生活に深く結びついていて、特に食生活は、本当に大切にしなければいけないな、と思った。また、脱力も大切、ということを知って、これからは適度に脱力して、健康に過ごせるように努力したい。

○もっと難しい授業だと思っていただけけど、すごく楽しかったです。ありがとうございました。

○普段あまり骨という事は気にしていなかったけど、今回の授業を受けて、改めて骨は大切なものだという事を知ることができました。骨以外にもダイエットや寿命の事なども教えていただき、いろいろな事を知ることができてとても良かったです。骨についてもっと知りたいと思いました。

○とてもおもしろい授業で始終聞き入ってしまいました。大学の授業は受けようと思っても受けられるものではないので、とても良い経験になりました。

<保護者>

○骨の大切さを改めて実感できました。またダイエットについては、本当に体重を減らすことしか考えられなかったのが、ちょっと考えさせられました。毎日の生活で食べること、動くことを丁寧に、大切にしていきたいと思います。

○経験豊富な先生のご講義、大変興味深く拝聴いたしました。あっという間の時間でした。今回だけでなく、成長期の生徒達全員に聴かせたい内容でした。

○中学生、高校生時代の学校の勉強は全て、医学の勉強につながる等、とても楽しい講座でした。

○とても楽しい時間を過ごすことができました。食生活のこと、ダイエットのこと、日々過ごす上で、参考になることがたくさんあり、時間のたつのがとても早かったです。今、大学生に戻れたら、もっともっと授業を熱心に聞きたいと思うのですが…。

【授業 4】

「哲学という冒険」

講師：佐藤 一郎（教育人間科学部）

概要：形而上学（メタフィジック）という哲学のあり方への手引きをこころみます。わたしたちの暮らしのどこかに、これと境を接して隣り合うもう一つの生き方に通じる道があるとしたらどうでしょう。そこに入っていければ、日々の生き方も前とは変わるでしょう。形而上学とはそういう違いをもたらすものだ

ろうと考えます。

時間：10:00～11:30

教室：Y号館11教室

振り返りシートの自由記述：

<生徒>

○僕は夜にマイケル・サンデルの授業を見たことがあります。彼の講義では『現実』、今回の授業でいえば「ある女の子のいる家」で起きた事件に対して、「哲学」(壁の向こう側での知識)を使って解決する方法について、焦点を合わせていました。同時に彼は、哲学をすることの危険性についても話していました。「哲学は人を現実にある常識を今一度見直すもので、悪い人間になったり、同じ目で世界を見られなくなる」と言っていました。今回の授業で『アマンディヌ』を通して、哲学の根本的なことを学ぶことができました。壁を超えた世界と、知らないままの世界を通して、僕は危険であっても、壁の先を知り、現実で生きたいです。

○哲学っていうのは今までで初めて触れるもので、難しいものでした。私には矛盾を突き詰めることで矛盾が生まれるような？突き詰めることが矛盾だと思いました。

○難しい内容であったとは思うが、少しずつしっかりと理解を深めることができた。

○難しかった。予習のつもりで読んだマンガもあまり役に立たなかったです。

○難しかったけど、とても深いと思った。哲学について何も知らなかった私でも、理解しやすい授業だった。

○面白かったです。哲学は新聞ぐらいでしか見る所が無いので、なかなか触れる機会がないのですが、もっと考えてみたいと思いました。

○1時間半という短い時間の中で、たくさんのことを学ぶことができて良かった。色々な哲学の本を読んでみたいと思った。

○哲学が何なのか、授業を受ける前は全然分かっていなかったけど、今まで知らなかった言葉や、哲学の意味を知ることができました。”形而上学”と言われても、ぴんとこなかったけど、それが何か分かったし、哲学は難しいけど、意外と知れて良かったです。

○哲学というものが何かよく分かりました。これからの人生のためになる、充実した時間を過ごせました。

○少し難しかったが、最終的に思考が整理され、分かったような気がした。

<保護者>

○哲学は自分で本を読むしか道がないので、広い知識のある方のお話により、見れる方向も変わるかと思い、自分で受けてよかったです。

○中学生には結構難しかったと思いますが、哲学という学問の深さを知り、興味を持てる良い機会になったの思います。大人の私としては(もちろん難しいところもあったのですが)人生を考える上で、大変示唆に富む、興味深いお話でした。

○答えが出ない奥が深い学問であると感じましたが、少し毎日の生活の中で哲学を意識する機会を持ってみたいと思いました。

○とても楽しかったです。哲学を生活の中にもっともっと取り入れて、もう1つの自分の世界を、生活のための生活を、築いてゆきたいです。

【授業 5】

「指揮者の仕事」

講師：手塚 実（教育人間科学部）

概要：指揮者にとって最も重要な仕事は、合唱であれ合奏であれ“その 楽団がつくれる最高のものを引き出す”です。この授業ではホルスト作曲『惑星』より“木星”の一部を使って、指揮者の責任、醍醐 味を味わい、指揮者によって音楽が変わることを体験します。この 体験を機に、音楽の聴き方に変化が起 ころことを期待しています。

時間：10：00～11：30

教室：L号館 527 教室

その他：演奏者として参加できる生徒さん大歓迎です。（楽器は各自でご用意 ください）

振り返りシートの自由記述：

<生徒>

○貴重な指揮の体験ができて、胸がいっぱいになりました。先生の指導もとてもおもしろく、時間が早く流れたように思いました。私は楽器を吹いていますが、演奏者を引っ張っていく指揮は、とても大変なんだとわかりました。

○体を動かすのがとても楽しかった。こういったことができるのは少ないので、貴重な経験ができたので良かったと思う。

○先生の話がわかりやすく、おもしろいので、指揮者の仕事の大切さ、大変さがわかりました。自分たちで、実際に経験させてもらって、良い機会だったと思います。次もこのようなことがあったら、参加したいです。

○とてもおもしろい授業で「指揮」について、楽しく学ぶことができました。また、実際に「ジュピター」を吹いてみて、指揮者についての理解を深めることができました。もし次にこのような機会があったら是非受けたいです。

○とてもおもしろく楽しい授業でした。また、指揮者の大切さやまとめ方や表現を学んで、私は指揮をする機会があったら、先生から学んだことをもとに、実践してみたいなと思いました。

○ただ授業を受けるのではなく、授業に“加わる”ということができ、とても楽しかったです。指揮の大切さややりがいを改めて知ることができました。この授業で学んだことを生かし、これからも音楽と関わっていきたいと思います。

「指揮の仕事」という授業を受けて、前より音楽を好きになることができた。指揮者や演奏家は、自分の想いや曲のイメージを音楽に込めることで、素晴らしい音楽をつくるのだと思った。指揮者の基本から応用まで学ぶことができ、とてもためになった。

○指揮者の仕事について学び、僕は音楽をやっているのだから、指揮というものは身近にあるものだったが、いざ「指揮者とは？」となると疑問がいくつもありませんでしたが、本日はこの疑問解消と+αのことが学べて、本当に良い1時間30分でした。

<保護者>

○今日の授業は最高でした。大学生にがんばってなりたいと、目標を持てるような授業をお願いします。

【授業 6】

「生物多様性の保全と希少生物の保護」

講師：宮崎 淳一（教育人間科学部）

概要：生物多様性ってなに？希少生物を保護するってどんな意味があるの？近年生物の絶滅はますます加速しており、また多くの生物が絶滅に瀕しています。自然の豊かさを楽しむために、また子孫により良い環境を残すために、生物多様性を保全し、希少生物の保護することが大切であることを一緒に考えてみましょう。

時間：10:00～11:30

教室：Y号館14教室

振り返りシートの自由記述：

<生徒>

○今回は6の、生物の多様性についての講義を受けたが、その中で一番強く思ったことは、それぞれの生物がつながりを持っていたことです。1つの種が絶滅することによって、それにつながっている生物も絶滅してしまう。また、それに関する生物も絶滅してしまうということを万人の人間が自覚する必要があると思いました。

○生物は保全が大切だと思っていたが、勝手に生物を放さないという事がよく分かった。遺伝子が交ざってしまうと、そのまま子どもが生まれなかったりするの、大変なことだと思った。これからはしっかりと自然を守り、また伝えていきたい。

○生物の絶滅は私たちに関係ないように思ってしまうがちですが、こんなにつながりがある、ということに驚きました。

○中学などでは受けることができないような授業を受けてみたいです。実験もしてみたいです。

○と一っつも楽しかったです。生物に幼いころからふれてきていたので、とても興味があったし、来年も受けられることなら受けてみたかったです。

○今回みたいな中学では習わないような、専門的な授業を受けてみたいです。

○ぜひ、県内の高校生も呼んでいただきたいです。

○普通はきけないことをきくことができ、とてもよかったです。このような機会があったら、また参加したいと思います。

○今まで知っているようで知らなかったことがわかっておもしろかった。来年もあれば、また参加したい。

<保護者>

○いっしょに聞いた娘も大変面白く、興味を持ったようです。進路を決めるため、色々な方面のお話を聞かせ、自分が一番楽しく勉強できるものを探させたいです。

○次年度、子どもが3年生になります。次回は参加するようにすすめたいので、よろしく願います。大学の授業が楽しいということを伝えたいと思いました。

○生物の多様性についての講義を受けました。どんな難しいお話を聞くのだろうか??不安もありましたが、身近なものを例にとり、大変楽しく、わかりやすく、興味深いものでありました。人間と生物の共存についての重要性を改めて知ることができました。

「生物の多様性」のお話は、専門的な研究であるにもかかわらず、身近な問

題であることに驚きました。このような授業をまた受けてみたいと思いました。20人弱のクラスでしたが、お話集中出来、よかったです。

○久しぶりに授業を受けて、大変楽しかったですし、大変勉強になりました。少し興味がありました生物の絶滅についてでしたが、より一層生態系を守っていかねばと考えさせられました。たいへんわかりやすく、生徒達にも聞きやすい授業でした。こういう体験を元に、将来研究したい勉強や進みたい道が見つければいいなと思いました。

○とても良い企画ですので、是非、全生徒出席扱いにしてはいかがですか？保護者も出席できるのは大変よい事です。

【授業 7】

「コミュニケーションの基本」

講師：栗田 真司（教育人間科学部）

概要：人とのコミュニケーションは、生きていく上で欠かすことのできませんが、教わったり、学んだりすることが難しいものでもあります。この授業では、未来の自分を創造し、人を励まし、力づけるためのコミュニケーションの基本的な考え方やスキルについて、カウンセリングの理論に基づいて解説します。

時間：10:00～11:30

教室：Y号館15教室

振り返りシートの自由記述：

<生徒>

○とても楽しく受けることができました。先生の話にとっても共感ができ、心がらくになったような気持ちになりました。

○心理学の授業を今回聞いて、とても興味がわいたので、もっと心理学のことを学びたいと思いました。

○たびたび具体例を演技でしてくれるのでとてもわかりやすかった。自分や周りの人にあてはまる事が多くあったので、すごく共感できた。とても楽しく授業に参加できて、これからの生活にも活かそうだった。

○共感することや、そうなんだー!!と思うことがたくさんあった。これから、今日聞いたことを忘れず、活かしていきたいです。

○先生の話方も授業もとても面白くて最高でした。私も大学生になったら心理学を学びたいです。

○自分が普段何気なく考えていることや行動に、色々な意味が含まれていたことが分かり、驚きました。初めての大学での授業、とても楽しかったです。

○今、私は2年生で、いよいよ3年生、つまり受験生になります。ついこの間のテストで今までで一番ひどい点数をとってしまいました。昨日、そんな点数とってると「高校いけねえぞ」と脅されました。そのときに、勉強って何の意味があるんだろう…と思いました。そこからイライラが生まれたりして、人にあたってしまうこともあります。今回この講座に出て、話を聞いているだけでも気持ちが楽になりました。人を認めるということが重要で、自分もそれができているかを見つめ直すことができました。私もコミュニケーションの能力を身につけて、たくさんの人と良い関係をつくることができるようにしたいです。

<保護者>

○私がどうしてこの講座を選んだのか、今日この授業を受けて腑に落ちました。日々の生活に多少の悩みはつきものなので、そんなにストレスを受けているつもりはなかったのですが、結構私がんばってたんだと思い、先生が「存在が○（マル）いるだけで○（マル）」と仰ったとき、涙が出てきてしまいました。

○思春期を迎えた息子のことで悩むことが多かったのですが、今日のお話の中でたくさんのことを改めて考えることができました。附属学校園の中においてこそ、得ることができる大切な時間だったと思います。

○子どもと相談し、同じ講座を受講でき有意義でした。家で今日の授業を基にした話題を家族全員でしてみたいと思います。

○栗田先生の新聞記事などは読んでおりましたが、実際にお顔を見て、お話を聞いて、身振り手振りを見ての授業を受けることができ、それがすぐに、今すぐに活かせる内容で大変有意義でした。レジュメも作ってください、折に触れて、内容を思い出し、役立てたいと思っております。

【特別授業の取り組みについて】

振り返りシートの記述：

<生徒>

○来年出来ないのが残念です。(3年生)

○もう少し大学を見回るなどして、大学の雰囲気を知りたかったです。

<保護者>

○学生時代に帰り、とても楽しかったです。また授業を受ける機会が欲しいと思いました。

○普段の生活の中では、なかなかとれない時間を過ごせました。このような機会はとても貴重だと思いますので、これからも増やしていただけたら、有り難いと思います。

○受験のための勉強も必要ですが、目標を見つけるための勉強も行う方がよいと思いました。

○タイムマシンに乗り、楽しい時間が過ごせました。(学生時代よりメモを取ったかもしれません…)

○附属中の生徒ですが、大学のキャンパス内を歩いたことがなかったようです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

○いっぱいノートに書き写しましたので、家に帰って、家族に今日の内容を話してみようと思います。

○親子で学ぶということは、お互いを理解し合える良い機会だと思います。このように与えられた機会を利用して、親子で成長していくことができたら良いと思います。